

一人ひとりの発達を踏まえた関わり方について～乳幼児体験の大切さ～

健やか育て・育ち直りアドバイザー

元愛知学泉短期大学幼児教育科教授 角田 春高

※ はじめに 日本の子育ての現状

(1) 「園での虐待」「不適切保育」は、日本の危機ではないか

①

②

(2) 長年の相談、事例援助経験から（子どもを中心に、子どもの発達を促す保育への一助）

①

②

2、気になる子への理解と関わり方

(1)

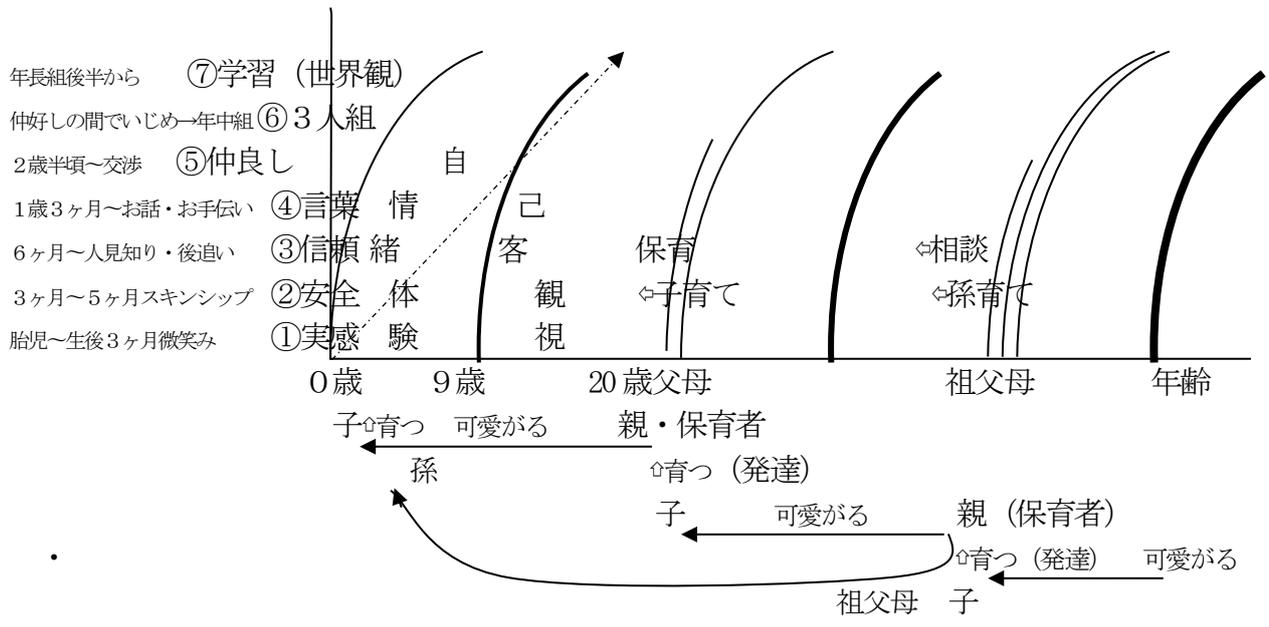
(2)

(3)

(4)

(5)

2、心の発達の基本モデル (=発達過程) < “今” から、あきらめないで、大人になる道筋を参照
 *乳幼児から老人までの相談経験を基 (エビデンス) にして、年齢相応に育った人、育ち直った人に共通するものとして7つの節目 (発達課題) を繰り返して大人になる二段階人格形成論を組み立てた。
 日本には、「つ」の付くうちの子育て、や、三つ子の魂百まで、との言い伝えがある (正の連鎖)



発達課題: 人格の形成 (心の成長) の節目 (ものさし) < いずれは経験する必要がある発達の節目 >

(注) 〈 〉の中は、原体験期での問題行動或いは症状 《 》の中は、自我確立期以降での問題行動或いは症状

- 【第1課題】** 生きている実感 (病気やけがをして、その怖いことが分かる) **《実感》**
 *全面的に親に保護、養育されて、生きている喜んであやしてもらおう微笑む (3ヶ月頃)
 〈能面ずら、表情が乏しい、存在感がない、作り笑顔、作り笑い、発達障害など〉
 《いじめ (発達障害、精神病型、自死) 不登校 (統合失調症型)、精神病 (統合失調症)、自殺・自殺企図、無差別殺人、摂食障害、一揆飲み、性非行など》
- 【第2課題】** 物や場所、人による安心感の広がり **《安全・安心、身を守る感覚》**
 *おんぶや抱っこされて、いつもと違う経験をする抱き癖しがみつき慰められて慣れていく
 〈乱暴、多動、危険が分からない、言葉の遅れ、一部の発達障害・グレーゾーンなど〉
 《アルコール (スマホ、薬物、ギャンブルなど) 依存症、ゲームお宅、いじめ (孤立)、不登校 (閉じこもり)、窃盗、援助交際、ストーカー、DV恋愛、プチ家出、性非行など》
- 【第3課題】** 人 (親) による安心感の広がり **《基本的信頼》**
 *人見知り (6カ月頃から) これが母ちゃんだ!後追い (8カ月頃から)自分が困ったとき親 (大人) に頼れる断りを入れられて分かれる親は自分を見捨てない安心して一人遊び
 〈乱暴、おとなしい、保育者に抱かれたり、側にいる、母子分離不安、言葉の遅れなど〉
 《いじめ (訴える)、不登校 (母子分離不安、家庭内暴力) 性非行、援助交際など》
- 【第4課題】** 自分の経験を言葉を覚え、言葉で表し、言葉で分かる **《言葉でのやり取り》**
 *口より先に手が出る (指さし、散らかし)言葉で伝える親の真似をする言葉で言われたことを実行する (お手伝い)自己主張 (お話しできる)・意志を持てる
 〈口より前に手が出る、言葉遅れ、お話が下手など〉
 《いじめ (優柔不断・言動の不一致)、指示待ち症候群、すぐ暴力に訴えるなど》

【第5課題】 対等な二人遊び（喧嘩もするが仲直りもできる）《仲良し》以上が、三つ子の魂百まで
*イヤ!・交渉の始まり（2歳半過ぎ）⇨譲ったり譲ってもらったりの学習⇨親を怒らせる⇨親
と仲直り⇨同世代で取り合い、互いの言い分を聞いてもらって仲直り⇨A君とばかり遊ぶ
〈主従関係、イヤといえない、物でつって遊ぶことと区別、喧嘩の仲裁の難しさなど〉
《親分・子分、小山の大將集団と区別、喧嘩の仲裁の難しさなど》

この課題の基礎まで達成している子どもを本来「3歳児保育」の対象（5領域）として考えている。
ここまで成長・発達していない子どもには、どのように乳幼児保育するのか？ それとも、「障害
のある子」としてこの先も生きていくもの考えるのか？

- ・思春期以降の大人になって不祥事を起こしたとき、ここまで成長・発達していない子ども時代であつたと思われる。
- ・子ども園、保育園、幼稚園での保育は、原則として、ここまでの発達をしている子どもを対象にしているが、子どもたち一人ひとりを見ると、「育ちの格差」生じていることと向き合う必要がある。

【第6課題】 対等な三人遊び（仲間外れと仲間外れを通して、二人の間に入る）《対等な三人組》
*Aさんと仲好し、Bさんと仲好し、Cさんと仲好し（お互いには仲好しの間柄）⇨AさんとBさん
とが遊んでいる時の入り方 ⇨ Aさんと遊んでいるBさん、Cさんの入れ方⇨大人の仲介で、AさんとB
さんCさんとが仲良く遊ぶ
〈一過性いじめたり・いじめられたり、いじめ仲裁の難しさ〉
《一過性いじめたり・いじめられたり、いじめ仲裁の難しさ》

【第7課題】 学ぶ（学習）意欲（宇宙の中の私）《世界観》（生かされて生きている）
*何となくの気分、豆博士、同じことでも親より先生の言ったときに従う。世界の広さに驚嘆し、
自然のすごさ、暖かさ、怖さなどを経験しながら、畏れの気持ちが持てるようになる

まとめ

- 1、育て直すことで子どもが育ち直す経験を基（エビデンス）に、一応、赤ちゃんが大人になる道筋がある（人格の形成）と考える。この発達論が曖昧のまま、子育てや保育、相談が語られている。まず、この健やかな大人になる道筋を学習する必要がある。
- 2、成長・発達とは、人格形成であり、順に積み重なるものである。問題行動や症状も不適切な関わり方で形成される。
- 3、乳幼児体験は、何歳からでも経験することができ、誰かによって経験できれば人生をやり直すことができる。思春期以降、大人まで、諦めることはない
- 4、「気になる子」の保育は、「保育の原点」である。健やかな育ち（人格形成）が分かっている必要がある。。何歳からでも不足している乳幼児体験を経験すると立ち直ることができる。子どもの発達を促す関わり方は、保育者自身の育ちが密接に関わっているので、自らの生育歴を認める必要がある。

【参考文献】 角田春高：赤ちゃんが大人になる道筋と育て直し （一粒書房、2020、8 発刊）
〈“今”からはじめる育て直し〉〈あきらめないで、育て直し・育ち直り〉、
親と園を結ぶ保育誌「げんき」（No77～166） いずれもエイデル研究所（Tel ; 03-3234-4641）

9月1日刊行 「振り返り」と「謝ること」で変わる保育 育て直し・育ち直り 文芸社
詳細は、「角田春高」で検索して見てください

今から取り組む保育と保護者・保育者援助、指導について～乳幼児体験への視点で～

1、はじめに

(1)

(2)

(3)

2、今から始める保育と展開

(1) まず、赤ちゃんが大人になる道筋を学習する

(2) 担当の子どもを、発達の視点で見立てる

(3) 子どもが発達する関わり方をする

(4) 1ヶ月後、子どもの変化、成長を点検する

(5) 担当して1ヶ月以上経って、子どもに変化・成長が見られない時、まず、子どもに謝る

(6) 見立て直し（発達段階、関わり方の検討）を行う

(7) 子どもに変化、成長が見られないのは、保育者の育ち・生育歴が密接に関わっているかもしれない

3、育てる・育て直す保育と展開

(1) 子どもの発達課題・育ちと発達過程を見る

①子どもの発達課題を見る

②子どもの発達過程を見立てる

(2) 発達を促す関わり方をする（保育者にとって、追体験となる）

(3) 子どもに変化、成長が現れる

(4) 保育者は保育が楽しくなる（これ無くして保育者の生きがいはない！また保育者の親指導、援助はない！）が、親の気持ち・態度はどうかを見る（親指導、援助の始まり）

(5) 親の理解にあたっては、親自身の発達課題と自分の育ちを向き合う気持ちがあるかを見る

4、近年の「親（保護者）」って？ 近年の「保育者」って？

養育者が園児の発達を促していないと認めない間、養育者としては園児を真綿で首をしめている！
と自覚すること

5、まとめ

- (1) 保育者は、まず、子どもの理解と関わり方に手応えを持つ
- (2) 子どもの変化、成長に伴う保護者の変化に関心を持つ
- (3) 保護者の人格形成の基礎（＝三つ子の魂）と、育ち直りの過程のどこにいるかを見立てる
- (4) 保護屋の子どもの悩み（子どもの見方か関わり方か、自分自身の抱える悩みか）を聞く様に努める
- (5) 保護者の悩みに合わせて、助言、指導、行動見本をする
- (6) 保護屋が子供と関わる手応えを持つ
- (7) 保護者とともに、子どもの成長・発達（特に、三つ子の魂を培う）に関心を持って関わる
- (8) 保育者同士も、その育ちを認め、育ち直ろう（育て直しを通して、育ち直る仲間作り！）

【参考文献】 角田春高：赤ちゃんが大人になる道筋と育て直し（一粒書房、2020,8 発刊）
＜“今”からはじめる育て直し＞＜あきらめないで、育て直し・育ち直り＞、
親と園を結ぶ保育誌「げんき」(No77～166) いずれもエイデル研究所（Tel ; 03-3234-4641）

9月刊行予定 「振り返り」と「謝ること」で変わる保育 育て直し・育ち直り 文芸社
詳細は、「角田春高」で検索して見てください